

第十六章 揖保川水系

千種川水系

第一節 概説

地形 市川水系ノ西ニ位シ播磨四郡ニ互リテ面積一〇
 〇方里ヲ占ムル地域ヲ總稱ス。北方一帯ハ中國山脈ニシ
 テ一、〇〇〇米内外ノ高峰相列ナリテ陰陽ノ水界ヲナシ東
 ハ其ノ支脈南ニ走リテ市川流域ト界シ西ハ播磨ノ西界ヲ
 隔テテ吉井川流域ト隣ス。千種川ハ其ノ西ニ位シ宍粟郡
 ノ一部ト佐用、赤穂ノ二郡ニ互リテ全面積ノ約四割ヲ占メ
 其ノ中間美作國界ヨリ南走スル支脈ニヨリテ更ニ二流域
 ニ分タル其ノ東ヲ南流スルハ本流ニシテ其ノ地勢稍急峻
 ナルモ其ノ西ヲ南流スル右岸支流佐用川ハ稍緩ナリ。揖
 保川ハ千種川流域ト市川流域トノ中間ニ位シ宍粟郡ノ大
 部ト揖保郡ノ全部ヲ抱擁シテ全面積ノ約六割ヲ占ム上流
 部ハ中國山脈ノ支脈ニヨリテ之ヲ引原川、三方川ノ稍急峻ナ
 ル二流域ニ分タルモ揖保川ハ山勢緩ニシテ谷開ケ沿川諸
 所ニ平野ヲ有ス

地質 揖保川流域ハ主トシテ火山岩ヨリ成リ花崗岩閃

綠岩等之ニ介在シ千種川流域ハ上流部花崗岩及其ノ他ノ
 火山岩ヨリ成リ中流部ニ至レハ中生層古生層第三紀層等
 トナリ下流部ハ火山岩ナリ

林野狀態 流域ノ大部ヲ占ムル潤葉樹林ハ多ク上流ニ
 存シ天然生ノ樺、栗、朴ノ類ヲ主トス揖保川流域ニハ約五方

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	潤葉樹林	針潤混 濁樹林	計	
揖保川 (調査測水所以上)	面積(方里)	〇・六	四・六	〇・六	二・〇	一・六	二・六
	同百分率	二二	二二	二二	二二	二二	二二
同 (地味取入口以下)	面積(方里)	〇・八	五・四	〇・九	一・四	一・九	三・六
	同百分率	三三	三三	三三	三三	三三	三三
千種川 (然則測水所以上)	面積(方里)	〇・六	二・七	〇・七	二・五	〇・六	三・六
	同百分率	一七	一七	一七	一七	一七	一七

里、千種川流域ニハ約一方里ノ官林ヲ有シ鬱蒼タル森林ヲ
 ナセルモ他ハ近時伐採セラレテ製炭ノ資ニ供セラルルモ
 ノ多ク寧ロ粗雜林タルノ状態ヲナス針潤混濁林ハ昔時伐
 採セラレタル跡ニ殘リシモノニシテ雜木ニ交フルニ松樹
 ヲ以テシ植林ノ見ルヘキモノ亦ナシ

氣象狀態 雨量ハ下流部ニ於テ一、二〇〇耗乃至一、三〇

〇耗内外ニシテ山間部ニ至ルニ從ヒ漸次ニ之ヲ増加シ二、

〇〇〇耗内外ニ達ス。氣温ハ沿海地方ニテ平均一五度山間部最冷地ニ於テ一三度内外ヲ示ス

第二節 揖保川

一、河川狀況 本川ハ上流ヲ引原川ト稱シ水源ヲ安栗郡奥谷村ナルル戸倉峠附近ヨリ發シテ南流シ西谷村ニ入りテ稍東南ニ折レ神戸村ニ至リテ左支三方川ヲ合セ揖保川トナル此ノ流路約九里流域一〇八四方里ナリ。三方川ハ富士野峠ニ發シ繁盛村地内ヲ西南ニ向ヒ三方村ニ於テ右支流ト合シ次テ左支流草木川ヲ合セ下三方村ニ至リテ左支福知川ヲ容レ流路約六里ニテ合流點ニ至ル此ノ流域一〇七方里ナリ。揖保川ハ南ニ流レ山崎町ヲ經テ網干町ニ

至リ播磨灘ニ注クモノニシテ流路約一二里流域五二二三方里トス

引原川ハ諸所相迫リテ斷崖ヲナセルモ概シテ谷開ケ岸低ク兩岸ノ山勢急ナラス河ハ小屈曲ニ富ミ河床概ネ岩盤ニシテ流下勾配概シテ急ナリ。水力ニ利用シ得ヘキ區域ハ奥谷村大字引原ヨリ神戸村大字閭賀ニ至ル約六里ニシテ其ノ勾配平均約一〇〇分ノ一ナリ

三方川ハ沿岸割合ニ開ケ兩岸ノ迫レル所少シ引原川ト同様ノ河床ヲナシ下流下三方村大字福中ヨリ神戸村大字曲里ニ至ル約二里ノ間ハ平均勾配約九〇分ノ一ヲ有シ稍利用シ得ルモ其ノ上流ハ比較的緩ニシテ利用ニ堪ヘス 揖保川ハ谷開ケ河幅廣ク河床玉石及砂礫ニシテ概ネ緩

揖保川流量表

關係灌溉用水四箇所アリ其ノ期間ハ五月一日ヨリ九月二十日迄ニシテ引用水量ハ總計四六個ナリ

Table with columns: 順位, 舊順位, 河川, 測水所, 面積, 年次, 最大, 平水, 低水, 濁水, 最小, 流域一方里, 最大, 平水, 低水, 濁水, 最小. It contains flow data for various years and locations.

流ナリ從ツテ水力ヲ利用シ得ヘキ範圍モ極メテ少ク僅ニ神野村大字清野附近約一五里ノ屈曲部アルノミ其ノ水面勾配ハ平均一八〇分ノ一ナリ。本河川ハ岩質堅ク崩壞等ノ憂少キヲ以テ出水期ニ於テモ土砂ヲ流出スルコト割合ニ少シ

本川最濁水期ハ夏季ニシテ秋季之ニ次イテ稍濁濁シ冬季ハ概シテ平水ニ近ク春季ニ高水多シ而シテ最大洪水期ハ夏季若ハ秋季ニシテ濁水量ノ大略二〇〇倍ニ達ス

二、水利及治水 沿川耕地諸所ニ散在シ之カ灌溉用水ハ總テ本流ニ仰キ其ノ期間概ネ五月ヨリ九月ニ互リ其ノ面積著シカラサルモ比較的多量ノ水ヲ引用シツツアリ

流木ハ上流ヨリ行ハレ引原川ニ於テハ西谷村字上野ヨリ三方川ニ於テハ三方村字三方ヨリ篠幅二間長サ二〇間位ニ組ミ網干町迄流送ス其ノ期間ハ灌溉期ヲ除キ毎年九

引原川、三方川、揖保川水力地點表

順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ 落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

Table with columns: 順位, 河川, 番地點, 取入口, 放水口, 水量, 落差, 馬力數, 巨水路, 面積, 能發電率, 年平均馬力數, 等級. It lists various water power sites and their characteristics.

月中旬ヨリ翌年四月末迄ニシテ流下年額約三九六〇〇尺ベニ達ス概ネ引原川ノ伐出材ニシテ三方川ヨリ流下スルモノハ其ノ約一割ニ過キス、漁業ハ鮎ヲ主トシ其ノ産額極メテ多ク其ノ他惡水、治水事業等ノ關係ナシ

引原川ノ上流ニハ播磨探鐵株式會社ノ許可地點アリ三方川ノ最下流及揖保川清野附近ニハ姫路水力電氣株式會社ノ許可地點アリ又三方川支流草木川ニハ同會社ニテ經營セル發電所ヲ有ス

三、水力地點 選定水力地點數八、其ノ平水時ニ於ケル馬力數一七、〇六二ニシテ其ノ内二箇地點ハ本調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用シ得可キモノハ六地點九、九四三馬力ナリ。今之ニ許可地點ヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數九其ノ馬力數一三、四一〇ヲ算ス

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域積	能發電	年平均馬力數	等級
一〇五二	引原川	番外二	兵庫縣赤松郡奥谷村 引原「クツレチ」	同 野尻郡奥谷村 大段山	湯水 三〇 低水 六三 平水 一〇〇	一五〇	五〇〇 一〇〇九 一六六五	一六五〇	五九〇	一〇〇〇 九三九 八二四	五〇 九八五 一七七一	甲
一〇五三	同	番外四	兵庫縣赤松郡西谷村 上野城村	同 郡西谷村 中山	湯水 四五 低水 九六 平水 一五二	一〇六	五二九 一三三〇 一七八八	一六四〇	八六六	一〇〇〇 九三九 八二四	五二 一〇六一 一七七一	甲
一〇五四	同	番外七	兵庫縣赤松郡西谷村 日見谷「ヒウチ」岩	同 閩郡神戸村 下山	湯水 五二 低水 一一二 平水 一七八	一〇六	六二二 一三二八 二〇九四	二一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇 九三九 八二四	六二 一三三六 一七二五	乙
一〇五五	揖保川	一	兵庫縣赤松郡野村 清野三渡	同 五十波 神野村 下	湯水 一九 低水 二六九 平水 四三四	一〇九	一四四〇 三二五五 五二五一	二五〇〇	二五七六	一〇〇〇 九三九 八二四	一七三 三〇五八 四三三六	乙
一〇五六	三方川	番外五	兵庫縣赤松郡三方村 福中	同 郡三方村 深河谷	湯水 三四 低水 七三 平水 一一五	一一〇	四五三 九七二 一五三二	二二〇〇	六六七	一〇〇〇 九三九 八二四	四三三 九三三 一三三二	乙
一〇五七	同	番外六	兵庫縣赤松郡三方村 田尻	同 郡神戸村 里	湯水 五四 低水 一一八 平水 一八七	* 九〇	五三九 一一七九 一八六八	二二〇〇	一〇六〇	一〇〇〇 九三九 八二四	五三九 一一〇七 一五三九	甲

水力地點ノ説明

順位一、〇五〇 引原川ノ左岸ニ取入レ開渠隧道各延長約八二五間ヲ開鑿ス關係用水ハ二箇所ニシテ二町四反歩ノ水田ヲ灌漑スル必要アルモ之ニ要スル水量ハ極メテ僅少ノモノナリ

順位一、〇五一 引原川ノ左岸ニ取入口ヲ設ケ隧道約九〇〇間、開渠延長約七五〇間トス、灌漑用水五箇所反別一四町歩ニ對シ水量二個ヲ分與スルノ要アルモ水力ニ利用シ得ヘキ水量トシテハ流域一方里ニ對シ順位二七一測水所ノ流量ヲ以テスレハ是等用水ニハ何等影響ナキモノト認ム

順位一、〇五二 引原川ノ右岸ニ取入口ヲ設ケ全部開渠ニ依ル、關係用水二箇所反別四町歩アルモ之ニ要スル水量ハ利用水量ニ比シ極メテ僅少ナルヲ以テ利用ニ際シ水路ノ餘水ヲ分與セハ充分ナリ

順位一、〇五三 引原川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ其ノ左岸ニ取入口ヲ設ケ開渠延長約八四〇間、隧道延長約八〇〇間トス、用水ハ四箇所ニ合計約一七個ヲ引水シテ反別二五町歩ノ水田ヲ灌漑スルモノアルモ利用ノ際ハ之ヲ四個以内ニ限定シ得ルナリ

順位一、〇五四 引原川ノ右岸ニ沿ヒ水路ヲ設ケルモノ

ニシテ大部分開渠トス、用水ハ五箇所ニ合計約五九個ヲ引水シテ七八町歩ノ水田ヲ灌漑スルモノアリ利用ノ際ハ之ヲ一二個以内ニ限定分與スルモノトス

順位一、〇五五 揖保川ノ右岸ニ取入レ開渠延長約一、八〇〇間、隧道延長約六〇〇間ヲ開鑿ス、用水ハ五箇所ニ合計七七個ヲ引用シ七七六町歩ノ水田ヲ灌漑スルモノアリ利用ノ際ハ之ヲ一二個以内ニ限定分與スルモノトシ、河川流量ヲ順位二七一測水所ニ於ケル流量ニ依リ推定シ之ヨリ前記用水量ヲ差引キタルモノヲ以テ利用水量トセリ、姫路水力電氣株式會社ニ許可

順位一、〇五六 三方川ノ右岸ニ取入口ヲ設ケ大部分開渠ニ依ル、用水ハ六箇所ニ合計約一九個ヲ引用シテ二六町歩ノ水田ヲ灌漑スルモノアリ利用ノ際ハ之ヲ四個以内ニ限定分與スルモノトス

順位一、〇五七 三方川ノ左岸ニ取入レ隧道約三〇〇間、開渠約九〇〇間ヲ開鑿ス、用水ハ四箇所ニ合計約二〇個ヲ引用シテ三三町歩ノ水田ヲ灌漑スルモノアリ利用ノ際ハ之ヲ五個以内ニ限定分與スルモノトス、姫路水力電氣株式會社ニ許可

以上諸地點ニハ沿川皆縣道開通シ山勢著シク急ナラサ
ルヲ以テ工事ノ施行竝諸材料ノ運搬等容易ナリ且流木ハ
大部分陸送セシメ水量ノ多キ期ニ於テノミ河川ヲ利用セ
シメ得ル様ナシ得ヘシ

第三節 千種川

一河川狀況 水源ヲ三室山ニ發シ千種村地方ヲ南ニ向
ヒ三河村ヲ過キ徳久村ニ至リテ漸次西南ニ轉シ左支志文
川ヲ合セ久崎村ニ於テ右支佐用川ト合シ流向南轉シテ赤
穂町ニ至リ播磨灘ニ注ク此ノ流路約二一里流域面積四七

七九方里ナリ
概シテ谷開ケ岸低ク兩岸ノ山勢緩ニシテ河ハ屈曲ニ富
ミ河床岩盤多ク流下勾配概シテ緩ナリ上流ハ急流ナルモ
水量少ク水力ヲ利用シ得ヘキ區域ハ三河村字船越ヨリ徳
久村字西徳久ニ至ル流路約四里ノ間ニシテ其ノ平均勾配
一二〇分ノ一ナリ出水ニ際シテハ洪水位高ク船越ニ於テ
約一六尺ニ達スルモ河床ノ移動變化ハ極メテ少シ
本川濁水期ハ概ネ夏季ニシテ秋季モ亦稍濁水ニ近ク冬
季ハ概シテ平水ヲ保チ春季ニ高水多シ而シテ最大洪水期
ハ概ネ夏季若ハ秋季ニシテ凡ソ濁水量ノ六〇〇倍ニ達ス

千種川 流量表

關係灌溉用水二箇所アリ其ノ期間ハ五月一日ヨ
リ九月十五日迄ニシテ引用水量ハ總計七個ナリ

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流量				流域一方里當流量				
					年次	最大	平水	低水	濁水	最小	最大	平水	低水
二七二	六七	千種川	兵庫縣赤粟郡三河村 船越 名目長	六〇〇	大正八年 六四〇〇	二八	七	三	三	一〇〇〇	一八七	一一三	六〇
					大正九年 五三〇〇	一三六	六八	四	五	八三四	二二六	一四〇	六七
					大正十年 七三〇〇	二七	八	六	六	一三〇〇	二〇三	一四〇	八九
					大正十一年 七五〇〇	二七	八	六	六	一三〇〇	二〇三	一四〇	八九
					平均	二七	八	六	六	一三〇〇	二〇三	一四〇	八九
						八三	四	四	四	一〇〇〇	二〇三	一三二	七三
													七三

三、水利及治水 本川ハ上流ヨリ耕地稍多ク灌溉用水各
所ニ存在シ五月初旬ヨリ九月中旬ノ間爲ニ引水セラルル

水量少シトセヌ水力ヲ利用シ得ヘキ區域内ニ於ケル用水
取入口ハ一七箇所此ノ反別一〇二町九反ニシテ引用水量

五三五個ナリ平均一〇町步ニツキ五個餘ノ水ヲ引用シツ
ツアリ

三、水力地點 選定水力地點數ニ其ノ馬力數ハ左表ノ通
ニシテ許可水力地點ナシ

其ノ他流水、漁業等ノ關係ナシ

千種川 水力地點表

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面積	發電率	年平均馬力數	等級
一〇五八	千種川	一	兵庫縣赤粟郡三河村 船越 名目長和	同 郡 三河村 河崎 京花	濁水 三五 低水 七一 平水 一一五	一七〇	六六〇	二五五	六一四	一〇三〇	一三五六	乙
一〇五九	同	番外	兵庫縣赤粟郡三河村 青木 向山	同 郡 徳久村 西徳久 溝口	濁水 四四 低水 八九 平水 一四二	一一四	五五七	三〇〇	七五三	一〇〇〇	一〇五五	乙

水力地點ノ説明

順位一〇五八 左岸ニ取入レ隧道延長八八五間、開渠延
長一、六四〇間トス、用水九箇所ニ合計約三一個ヲ引用シ五
九町一反歩ノ水田ヲ灌溉スルモノアリ利用ノ際ハ之ヲ九
個以内ニ限定分與スルモノトシ河川流量ヲ順位三七二測
水所ニ於ケル調査ノ結果ニヨリ推定シ之ヨリ前記用水量
ヲ差引キタルモノヲ以テ引用水量トセリ

シテ六七町一反歩ノ水田ヲ灌溉スルモノアルモ利用ノ際
ハ之ヲ一〇個以内ニ限定シ得ル見込ナリ引用水量ノ決定
ニ關シテハ前地點ニ同シ

第十七章 吉井川水系

第一節 概説

順位一〇五九 右岸ニ取入レ隧道延長約一、五〇〇間開
渠延長約一、五〇〇間トス、用水六箇所ニ約四〇個ヲ引用

地形 本流域ハ真庭郡美津郡ヲ除キ美作、備前ノ二國ハ
郡ニ跨リ北ハ因幡伯耆ノ國界ヨリ南ハ兒島灣ニ連ナリ面